

ふじさき歯科 デンタルニュース

2013年 No.21



道楽のすゝめ



私のような几帳面で真面目一本の人間が（これを言う周囲の人々からなぜか大ブーイングが聞こえてくるのですが）このようなことを語るのはお門違いかもしれませんが、「今どきの若いもの」は本職以外のことや、趣味などで生活を楽しむなどいうことが減ってきているように感じます。

「今どきの若いもの」というフレーズを言うという事自体、既に歳をとったという証拠でしょうが、人々の生活のなかに、楽しむというか物事に熱中することが少なくなってきたような気がします。

その理由として、毎日の忙しい仕事や生活、また現代の人間関係の希薄さなど、いろいろ理由があるのですが、生活に余裕を持つという意味では三十年、四十年前も、今以上に大変だった気がします。

しかしながら、余裕のない時ほどそこから一步離れ、ほんのちよつとの余暇を見つけ、何かに夢中になるといふのは、人に大変な活力をもたらしてくれるものと思います。私にとってどんな趣味も、道楽も、どれ一つとっても貴重なライフタイムです。あまりに熱中しすぎて失敗したこともありましたが、それ以上に得られたものが沢山、沢山あります。

私は新入のドクターやスタッフたちが就職してくるといつも最初に話すことがあります。それは新社会人のスタートにおけるおじさんからのひとつの提案みたいなものですが、「社会人となり毎日仕事をするようになると、その忙しさに、生活に、対人関係に、自分を見失いそうになることもある。そうならないように、自分の中に三つのスタンスをしっかり持ち続けてほしい。三つのスタンスとは、社会人としての公的な立場、生活する中でプライベートな環境、そして自分自身の心にある自己の世界。この三つの世界

を毎日行き来すること」

海外に行った時などに感じます。それほど経済的にリッチでない国でも、人々がゆったりと働き、自分の人生を楽しみ、質素に暮らし、仕事の他にも趣味や、サークル、人との交流を十分に楽しんでいて、と思われる国がいくつもあることを。

日本人の勤勉さ、真面目さはずっと美德とされ続けてきました。もちろんそれはとても素晴らしい特質でしょう。しかし世界中からエコノミックアニマルなどと言われて

はや数十年。景気が良くても一生懸命働き、悪くともっと頑張ってしまう日本人。いつまでもナントカミクスなどという目先の経済発展ばかりに目をやるのはいかなものでしょう。そろそろ自然体の生活に戻ってもよいのでは。

それにしても八十才にしまだエベレストに登ろうという三浦雄一郎さんのとてつもないモ